

デイリー・ジーザス・ニュース #271

受難週の火曜日…試練と教えの日 イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」

第5部：父のみがその日と時刻を知っているので、イエスは警戒を命じる
MT 24. 32-44 (並行聖書：マルコ 13. 28-32、ルカ 21. 28-33)

32 MT 「いちじくの木から、またすべての木から、この教訓を学びなさい。 MT その小枝が柔らかくなり、葉が出ると、あなたたちは自分でそれを見て、夏の近いことが分かります。 MT このように、あなたがたは、これらのことすべて起こるのを見たら、神の国が近づいて、戸口まで来ていることが分かります。 MT これらのことすべてが起こり始めたら、立ち上がり、頭を上げなさい。あなたがたの救いが近づいているからです。」

34 よく言っておく。これらのことすべて起こるまでは、この世代は決して滅びない。 35 天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。

36 しかし、その日、その時については、だれも知らない。天の御使たちも子も知らない。ただ父だけが知っている。

37 ノアの時代にそうであったように、人の子の来るときもそうなるであろう。 38 洪水前の日々、ノアが箱舟に入る日まで、人々は食べたり、飲んだり、めとったり、嫁がせたりしていた。 39 洪水が来て、すべての人をさらって行くまで、彼らは、これから起こることを何も知らなかつた。人の子の来るときも、そのようになるであろう。 40 ふたりの男が畑にいるとき、ひとりは連れて行かれ、ひとりは残される。 41 ふたりの女が臼をひいているとき、ひとりは連れて行かれ、ひとりは残される。

42 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたにはわからないからです。 43 しかし、このことをよく理解しなさい。もし家の主人が、盗人がいつ来るか知っていたら、目を覚まして家に押し入らせはしなかつたでしょう。 44 だから、あなたがたも用意をしていなさい。人の子は思ひがけない時に来るからです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレム郊外のオリーブ山
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	C. 火曜日：テストと指導の日
	イエスの弟子たちへの個人的な教え：「オリーブ山の説教」
タイトル	第5部：父のみがその日と時刻を知っているので、イエスは警戒を命じる

コメント：

デイリー・ジーザス・ニュース #271

今日の朗読の中で、イエスはご自身の最後の再臨に関する教えの中で最も重要な点を述べられました。再臨には二つの真理が常に緊張関係にあります。一つには、イエスは七つの条件を示し、それらが全て満たされる時、再臨が近いことを示しています。もう一つには、イエスはご自身の再臨の正確な日時を誰も知らず、それは決して変わらないことも明確にされました。神はイエスの再臨の正確な時期を決して明らかにされません。明らかにされるのは、それが起こるために必要な条件だけです。このように、私たちは主の再臨の状況は知りながらも、その日時は知らないという緊張関係の中で生きているのです。

歴史を通して、多くの信者がこの二つの真理を誤解してきました。そこで、それぞれについてもう少し深く考えてみましょう。

「それにもかかわらず、あなたがたは、これらのことすべてを見たら、神の国が近づいて、戸口まで来ていることが分かるでしょう。」

イエスが示された七つの条件は、全てが満たされたと確信できるほど明確です。それらが全て満たされるまで、私たちも同様に、イエスの再臨がまだ未来にあることを知ることができます。イエスがこの言葉を語つて以来、七つの条件全てが満たされた時はありません。私たちはそれらの成就を待ち続けています。イエスは、全ての条件が満たされた時に生きている世代が、イエスの最後の再臨の前の最後の世代となると約束されました。

しかし、その日、その時は、だれも知らない。天の御使いたちも、子も知らない。ただ父だけが知っている。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたは知らないからである。

教会の歴史において、特に近年、多くの人がイエスの再臨の正確な日を知っていると主張してきました。しかし、彼らは皆間違っていました。なぜなら、誰も正確な日を知らないからです。誰もこの情報を知ることはないでしょう。誰かがそれを知っていると主張する時、その人は偽預言者です。彼らの預言は必ず間違っていると確信できます。イエスはこの真実をはつきりと理解していました。父なる神だけが知っています。以上です。

そのため、イエスは残りの説教で一連のたとえ話を語りますが、どれも同じ意味を帯びています。「警戒せよ、見張れ、備えよ」。イエスが最後に来られる日と時刻を誰も知らないという事実は、常に警戒を怠らないことが必要であることを意味します。

応用：

「時のしるし」に強い関心を抱いてきました。数え切れないほどの書籍、セミナー、説教が、現代の出来事をオリーブ山の説教におけるイエスの記述や黙示録と関連づけようと試みてきました。「私たちは終末の時代に生きているのか?」という問いに答えようと、多くの時間を費やしてきましたが、これは大きな時間の無駄であり、注意をそらすものでした。その理由を以下に説明します。

デイリー・ジーザス・ニュース #271

イエスが私たちに与えられた7つの条件のうち、私たちがコントロールできるのはたった2つだけです。それは、私たちの愛の状態と、すべての国々に福音を宣べ伝えるという使命です。終わりの日にほとんどの人の愛は冷えてしまうでしょうが、私たちは神と他の人々への愛が聖霊の力によって白熱するように警戒する必要があります。愛せよという戒めは、あらゆる戒めの中で最も偉大な戒めです。

同様に、すべての国の人々を弟子とするというイエスの命令は、私たちの未完の大業です。私たちはこの仕事に全神経を集中すべきです。この仕事を果たすまでは、私たちは「終末」ではないことを確信しています。「時のしるし」を研究する必要はありません。主が私たちに与えられた大業は、未完のままなのです！これは紛れもなく明らかです。

終末預言の研究に費やす時間は、むしろ失われた世界に福音を宣べ伝えることに費やすべきです。「終末」というセンセーショナルな考察に惑わされてしまうのは、あまりにも容易なことです。まさにイエスが警告されたのは、こうした注意散漫です。私たちはこのことに関して、イエスの言葉に耳を傾けるべきです。

どうすれば神と他者への愛を深め、世界宣教と伝道活動に参加することに集中できるでしょうか。

これら2つの主な責任を果たすために、今週は何をしますか？